

総括質疑

一般質問

大井としひろ 議員 (須磨区)

藤原武光 議員 (垂水区)

「障がい者就労」支援充実に一歩前進!

- 1. 神戸の観光振興について
 - (1) 須磨エリアの観光振興について
 - (2) 「べっぴんさん」を契機とした神戸の魅力発信について
 - 2. 障がい者就労について
 - 3. スポーツを活用した地域振興等のあり方について
- 以上、3問4項目を質問し、特に障がい者就労について、久元市長以下執行部から下記内容の前向きな答弁を頂きました。

Q 介護等の場における知的障がい者の就労促進事業についてどう考えているか?

A 知的障害のある方への介護技能等の習得研修プログラムの検討を急ぎ、介護事業への就労マッチングまで一貫して行う仕組みについて具体化したい。
また、ICTを活用した在宅勤務や短時間雇用の観点からも新しい取り組みを検討したい。



Q 障がい者継続支援 A 型事業所への支援は?

A 就労継続支援 A 型事業所はじめ、障害福祉サービス事業所に、神戸市障がい者優先調達推進方針を策定し、出来るだけ率先して調達するように努めているが、今後はさらに力を入れて、外郭団体を含めた安定した仕事を発注が出来るように取り組み、障害福祉サービス事業所の賃金アップに繋げていきたい。



1. 高齢者の一人暮らしに対する新たな支援施策

Q 単身高齢世帯が急増し2015年の国勢調査によると全国では562万人にもなっている。「自立的・自己責任」の生き方をサポートするため、福岡市社会福祉協議会などでは「生前事務委託契約」「死後事務委託契約」のようなサービスを行なっている。神戸市でも新たな制度の開発とサービスの提供を検討すべきでは?

A 成年後見支援センターの開設などに取り組んできたが、公民連携や様々な主体との役割分担を考え、他都市の事例も参考にして、サービスの具体化の検討していく。



2. 地域包括ケアシステムの構築に向けた医療と介護資源の課題

Q 2025年問題が叫ばれる中、在宅医療と介護を支えるため、地域包括ケアシステムの構築が急がれる。特に垂水区は、その基盤となる医療資源(病院数・病床数・医療スタッフ)が神戸市内で一番少ない。医療資源の大幅な拡充はできないか?

A 垂水区における医療機関不足は従来から言われており、指摘の通り医師数は最も少ない。各区のバランスが取れた地域医療資源の配置を進めたい。

3. 障がい者就労の新たな支援

Q 2006年10月に「障がい者自立支援法」が、2016年4月には「障がい者差別解消法」が施行され、今後更に障がい者の雇用が求められる。他都市の先進事例を参考に、神戸で「農福連携」による新たな雇用創出の仕組みはできないか?

A 北区、西区で取り組みがされているが、全国的にも農福連携の事業が促進されている。神戸市でも新たに農福連携・就労推進が出来ないか検討を加速したい。

決算特別委員会 各会計の決算及び関連議案は、総合的・一元的に一つの委員会で審査することが適切であるとの考えから、3つの分科会を設けて、審査を行っています。

- 第1分科会
 - 理事 人見 誠(北区)
 - 藤原武光(垂水区)
 - 第2分科会
 - 平木ひろみ(中央区)
 - 永江一之(灘区)
 - 第3分科会
 - 副委員長 川原田弘子(垂水区)
 - 大井としひろ(須磨区)
 - 川内きよなお(垂水区)
- 議長 池田りんたろう(北区) 監査委員 岩田よしあき(西区)